

論壇

大きな変化の先触れ

元日に届いた友人の年賀状に、かつて小泉首相がよく使った言い回しが引用されていた。人生には三つの坂があるという。一つ目は上り坂、二つ目は下り坂、そして三つ目は「まさか」であるという。ダジャレにしてはなかなかよくできた言い回しだと思う。

毎年1月には、あちこちで新春講演会が開かれる。多くの聴衆の関心は、今年の経済がどうなるのかということだ。「上り坂」なのか、それとも「下り坂」なのか。つまり景気は良くなりそうなのか、それとも景気が悪くなるのか

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

知りたいのだ。では、今年はどうだろうか。どうも「まさか」になりそうなのだ。

予想外のこととは昨年から起きている。イギリスの国民投票がEUからの離脱を決定することも、そして米国の大統領がトランプ氏に決まることも、ほとんどの人が予想しなかったことだ。こうした変

予想が難しい経済の行方

化が経済にどのような影響を及ぼすのかはまだ読めない部分が多い。ただ、大きな変化の先触れのような感じがする。

「まさか」であるので、今年何が起きるのか予想するのは難しい。予想しなかったような「まさか」を予想することは難しいから

だ。ただ、今年の国際政治日程を見ると、大きな変化を起こそうなことがいろいろある。大きく揺れている欧州では、フランスとドイツという中核国で政治のトップを決める選挙が行われる。欧州統合に反対する右翼の台頭など、不安定要因がいろいろと指摘されているが、結果によっては日本にも

米国では、1月20日からトランプ政権が始動する。大統領選以来の短期間で為替レートや株価に大きな影響を及ぼした政権交代だが、まだ政権は始動していない。

隣の韓国では、現職の朴槿恵大統領に対する弾劾投票が可決されるという前代未聞のことが起きている。次の大統領が誰になるかは分からないが、せつかく少しだけ正常化の道を歩み始めた日韓関係がまた悪化してしまうようでは困

想定外への覚悟必要

過度な警戒をする必要はないが、安易な楽観論も控えるべきだろう。この2カ月近くで為替レートは大幅に円安になり、株価は大きく上昇した。ただ、あまりにも行き過ぎた円安や株高は、その反

動の動きを誘うことにもなりかねない。

トランプ政権の通商関係の閣僚候補者などの顔ぶれを見ると、日米の鉄鋼摩擦をリードした弁護士や、中国の過剰な輸出を厳しく批判してきた大学教授などが並んでいる。これが日米貿易関係にどのような影響があるのかすぐには予想が難しいが、日本からの輸出の増加や、円安などに対して、厳しい視線を向けられる可能性は小さい。

「まさか」ということは、予想外の悪い事が起きるといっただけではない。予想外の良い事が起きる可能性だってある。いずれにしても、想定外の事が起きて驚かないという覚悟が必要な年となるだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。